

決算説明会

2018年3月期（第112期）

2018年6月7日

 日本特殊塗料株式会社



目次

1. 2018年3月期 決算の概要
2. 2019年3月期 通期業績予想の概要
3. 当社の事業概要
4. 今後の成長戦略

<参考資料>

1. 会社概要
2. 主要な経営指標の推移

1. 2018年3月期 決算の概要

(1) 2018年3月期 決算サマリー

① 連結損益計算書

単位：百万円

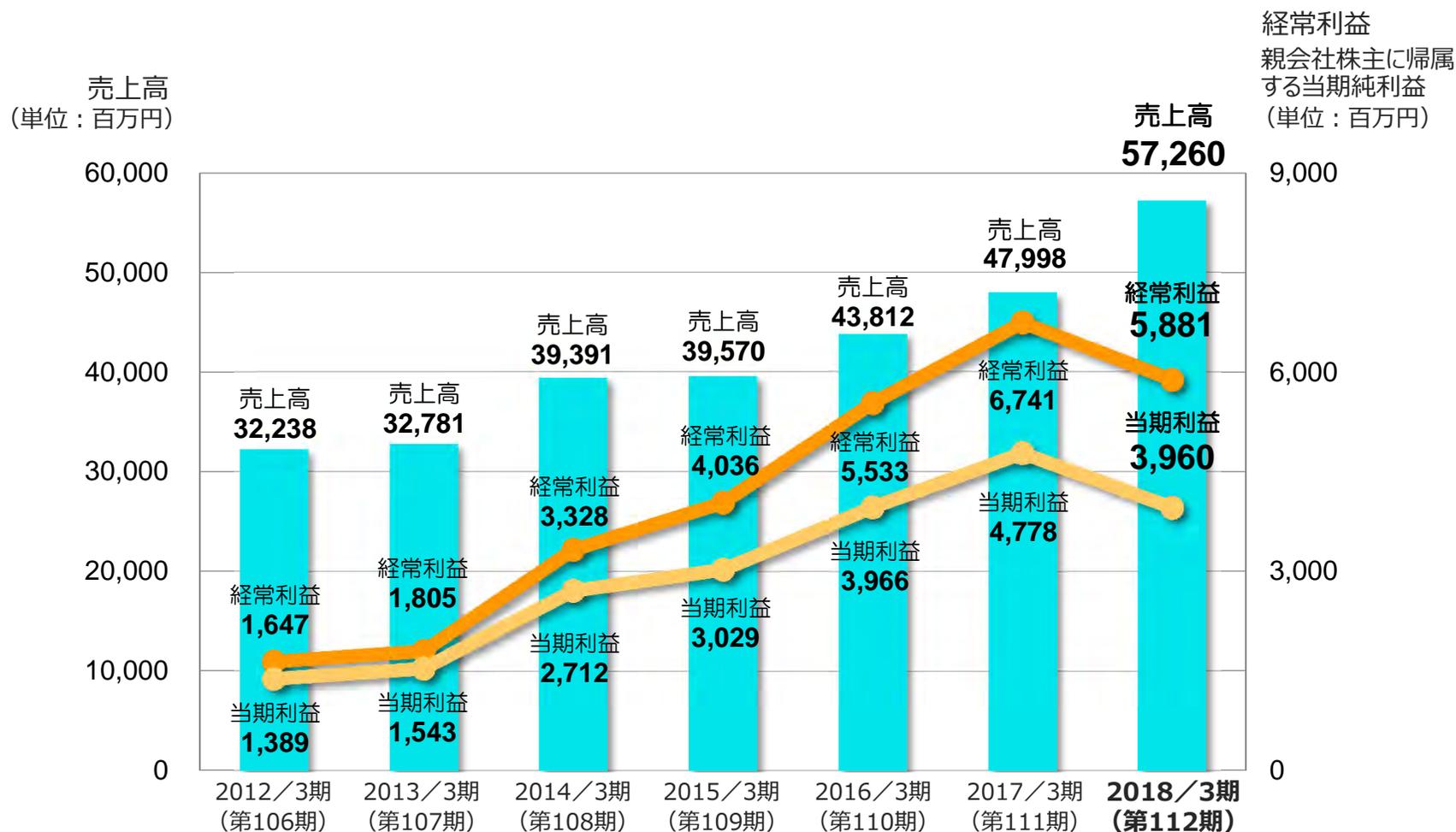
	17/3月期		18/3月期		前期比	
	実績	構成比	実績	構成比	増減額	増減率
売上高	47,998	-	57,260	-	+9,261	+19.3%
売上原価	36,737	76.5	44,663	78.0	+7,925	+21.6%
販売費及び 一般管理費	8,098	16.9	9,311	16.3	+1,212	+15.0%
営業利益	3,162	6.6	3,286	5.7	+123	+3.9%
経常利益	6,741	14.0	5,881	10.3	※ △859	△12.8%
親会社株主に帰属 する当期純利益	4,778	10.0	3,960	6.9	※ △818	△17.1%
1株当たり 当期純利益	216.11円	-	179.12円	-	△36.99円	-

※経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、主に持分法による投資利益が前期比で減少すること（前期は米国関連会社U G Nにおける固定資産売却益960百万円を計上）等により、前期比減少

1. 2018年3月期 決算の概要

(1) 2018年3月期 決算サマリー

② 連結業績の推移 (直近7期)

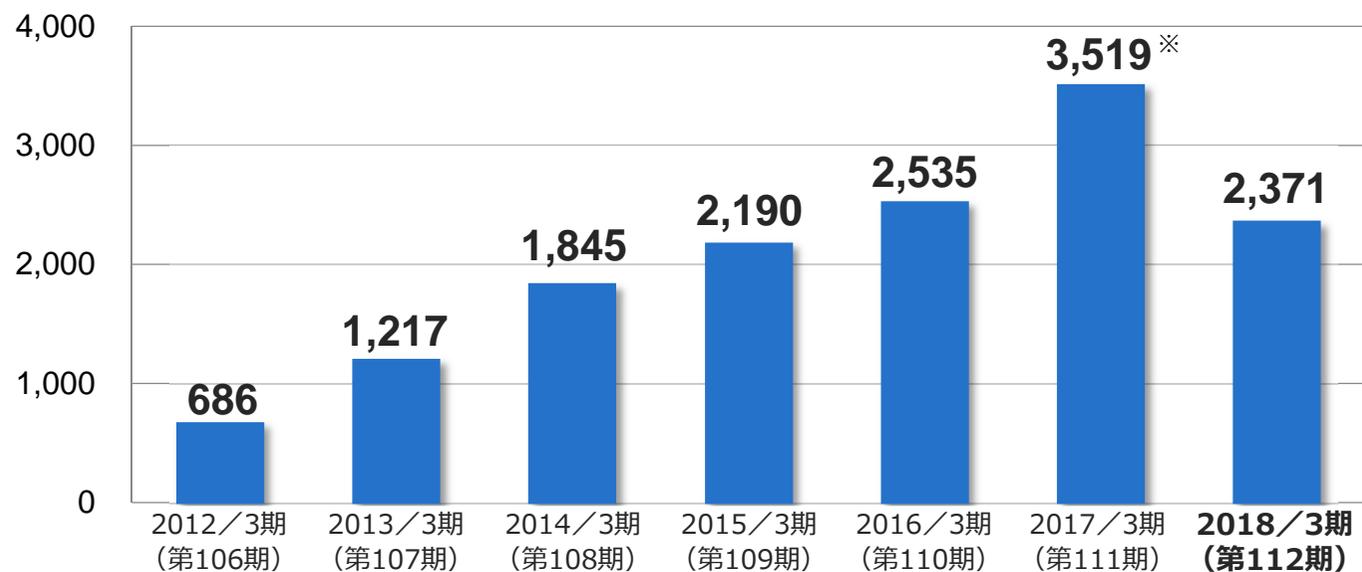


1. 2018年3月期 決算の概要

(1) 2018年3月期 決算サマリー

③持分法投資利益の推移（直近7期）

(単位：百万円)



・持分法投資利益は、前期特別要因※を除き、ほぼ横ばい

※前期は米国関連会社UGNにおける固定資産売却益960百万円を計上

1. 2018年3月期 決算の概要

(2) セグメント別の状況

① 塗料関連事業

単位：百万円

	17/3月期 実績	18/3月期 実績	増減額	前期比 増減率
売上高	15,220	16,124	+903	+5.9%
セグメント利益	715	448	△266	△37.2%

【売上高】

- ・工事関連売上が堅調に推移（+28.5%）
- ・主力の防水用塗料（△2.7%）、屋根用塗料（△8.0%）が前期比減少 → 国内需要低迷、競争激化

【セグメント利益】

- ・原材料価格の高騰、固定費増加により前期比減少

1. 2018年3月期 決算の概要

(2) セグメント別の状況

②自動車製品関連事業

単位：百万円

	17/3月期 実績	18/3月期 実績	増減額	前期比 増減率
売上高	32,763	41,122	+8,358	+25.5%
セグメント利益	2,440	2,830	+390	+16.0%

【売上高】

- ・吸・遮音材が新規部品（フロアカーペット等）の受注増加により前期比大幅増（+39.6%）

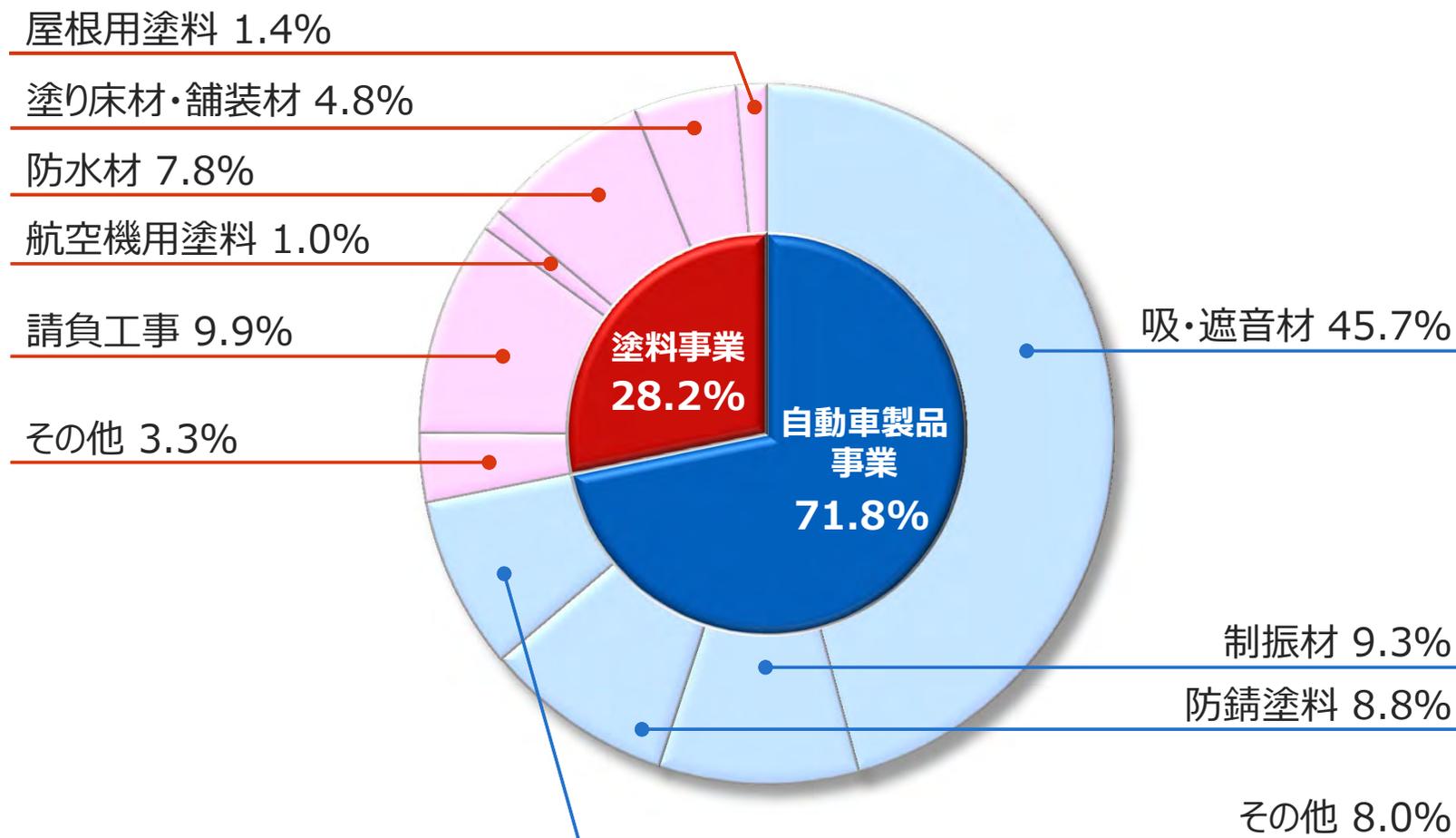
【セグメント利益】

- ・売上原価高止まり（新規部品生産立上げ費用、固定費増）でセグメント利益率は低下（7.4% → 6.9%）

1. 2018年3月期 決算の概要

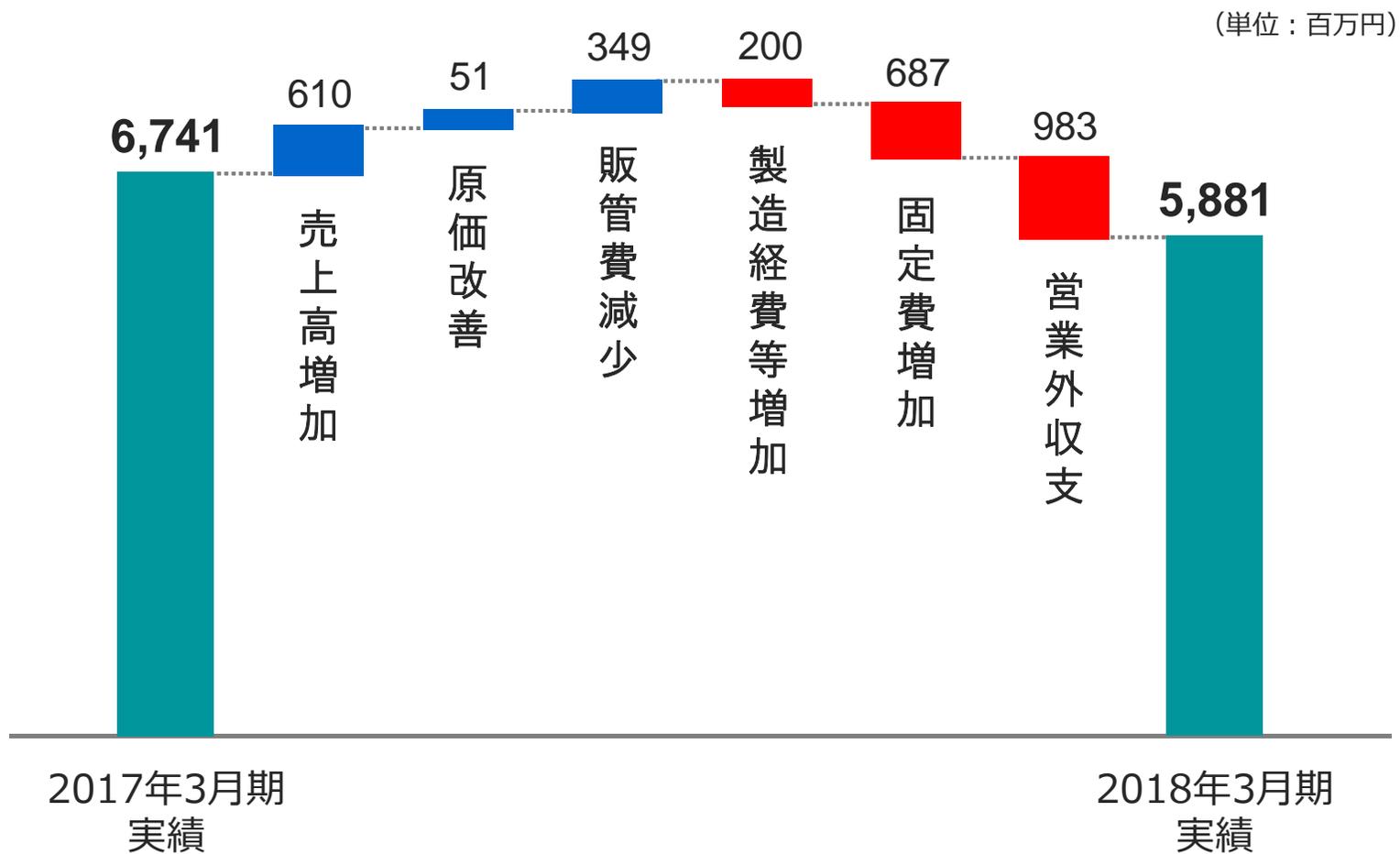
(2) セグメント別の状況

③売上高構成比（主要製品別）



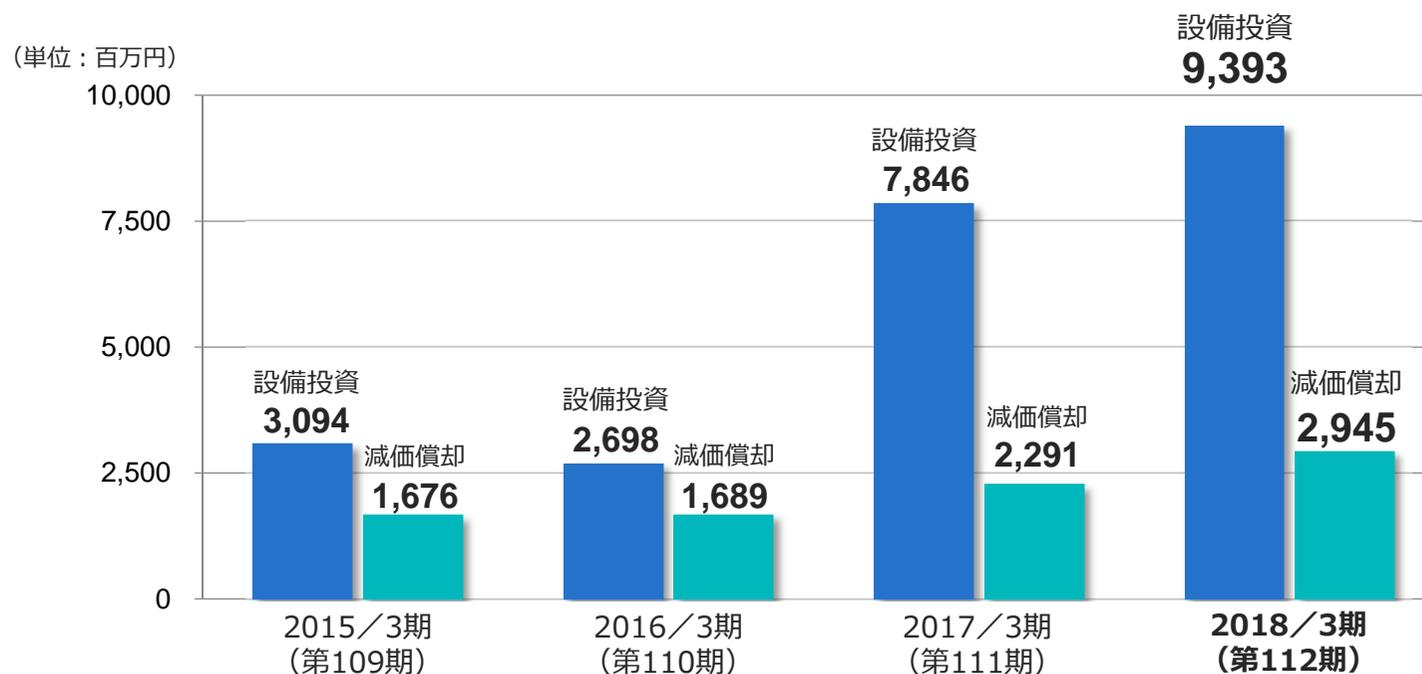
1. 2018年3月期 決算の概要

(3) 経常利益増減要因



1. 2018年3月期 決算の概要

(4) 設備投資 (工事ベース) ・減価償却費



・前期同様、2018年3月期も吸・遮音材（フロアカーペット等）の生産設備増強等に投資

➡ 2018年3月期が当面の設備投資のピーク

1. 2018年3月期 決算の概要

(5) 連結貸借対照表

単位：百万円

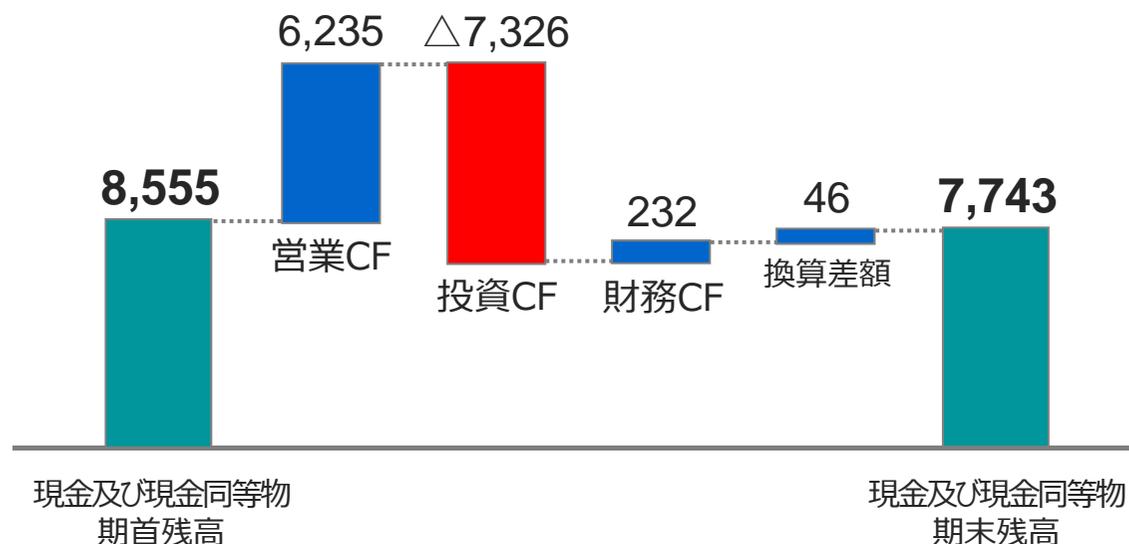
	17/3月期		18/3月期		前期比
	実績	構成比	実績	構成比	増減額
流動資産	26,815	40.0	29,825	38.7	+3,009
固定資産	40,171	60.0	47,217	61.3	+7,045
有形固定資産	18,899	28.2	25,044	32.5	+6,144
無形固定資産	1,053	1.6	1,191	1.6	+137
投資その他の資産	20,218	30.2	20,981	27.2	+763
資産合計	66,987	100.0	77,043	100.0	+10,055
流動負債	17,776	26.5	22,715	29.5	+4,939
固定負債	9,671	14.5	10,653	13.8	+981
負債合計	27,447	41.0	33,368	43.3	+5,921
株主資本	31,472	47.0	34,594	44.9	+3,121
その他の包括利益累計額	5,290	7.9	5,645	7.3	+354
非支配株主持分	2,775	4.1	3,434	4.5	+658
純資産合計	39,539	59.0	43,674	56.7	+4,134

1. 2018年3月期 決算の概要

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

	17/3月期	18/3月期	前期比増減
現金及び現金同等物の期首残高	6,073	8,555	+2,482
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,926	6,235	△691
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,055	△ 7,326	△1,270
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,210	232	△977
現金及び現金同等物に係る換算差額	△21	46	+67
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	422	—	△422
現金及び現金同等物の期末残高	8,555	7,743	△812



2. 2019年3月期 通期業績予想の概要

(1) 2019年3月期 通期業績予想サマリー

① 連結業績予想

単位：百万円

	18/3月期		19/3月期		前期比	
	実績	構成比	業績予想	構成比	増減額	増減率
売上高	57,260	—	60,600	—	+3,340	+5.8%
営業利益	3,286	5.7	3,300	5.4	+14	+0.4%
経常利益	5,881	10.3	5,900	9.7	+19	+0.3%
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,960	6.9	4,000	6.6	+40	+1.0%
1株当たり 当期純利益	179.12円	—	180.92円	—	+1.80円	—

2. 2019年3月期 通期業績予想の概要

(1) 2019年3月期 通期業績予想サマリー

②セグメント別業績予想

単位：百万円

	売上高			セグメント利益（営業利益）		
	18/3月期 実績	19/3月期 業績予想	増減率	18/3月期 実績	19/3月期 業績予想	増減率
塗料関連事業	16,124	17,200	+6.7%	448	600	+33.7%
自動車製品 関連事業	41,122	43,400	+5.5%	2,830	2,700	△4.6%

2. 2019年3月期 通期業績予想の概要

(1) 2019年3月期 通期業績予想サマリー

③業績予想のポイント

【売上高】

- ・塗料事業 塗料製品（防水材、床材等）の販売増
請負工事の受注増
- ・自動車製品 新規部品の生産増（フロアカーペット等）

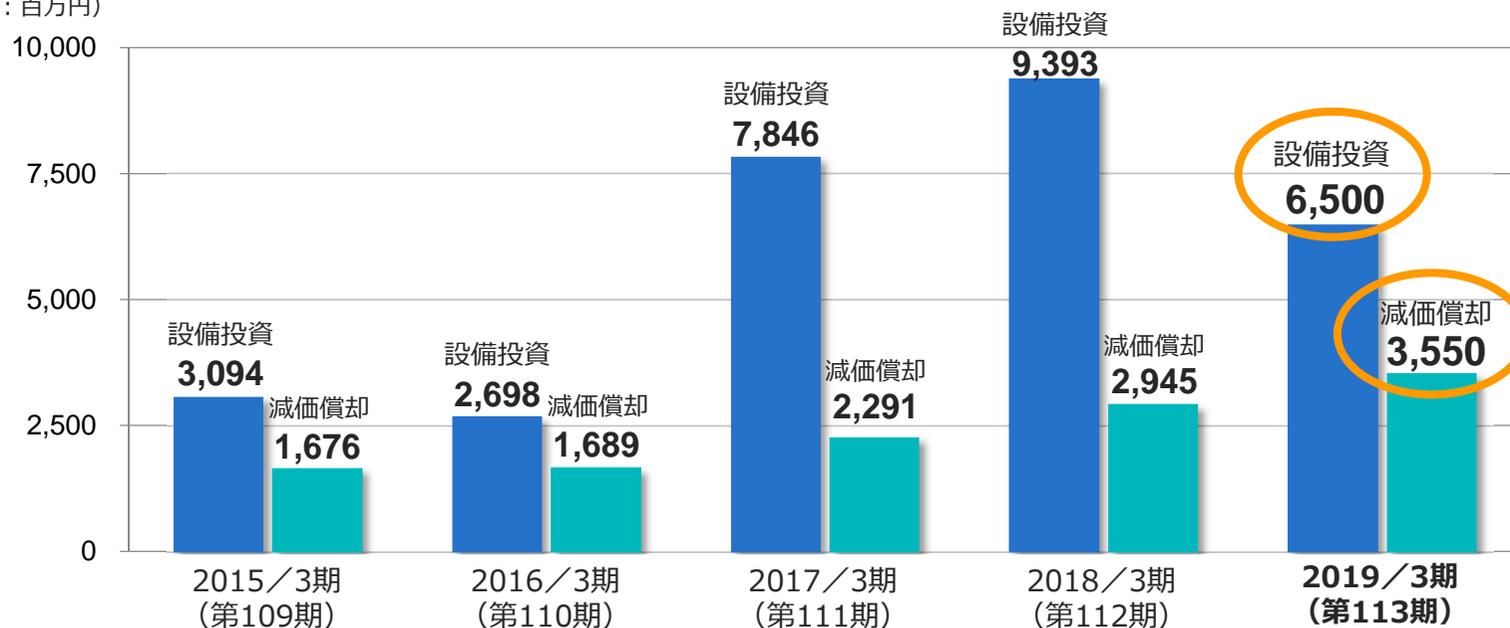
【利益】

- ・売上原価高止まり（新規部品生産立上げ費用、固定費増）
- ・原材料価格の高騰
- ・為替変動の影響（想定レート 1ドル=110.0円）

2. 2019年3月期 通期業績予想の概要

(2) 設備投資（工事ベース）・減価償却費

(単位：百万円)



計画

愛知工場を中心に、吸・遮音材（フロアカーペット等）の生産設備増強等に引き続き投資



▲愛知工場新工場



▼愛知工場生産設備

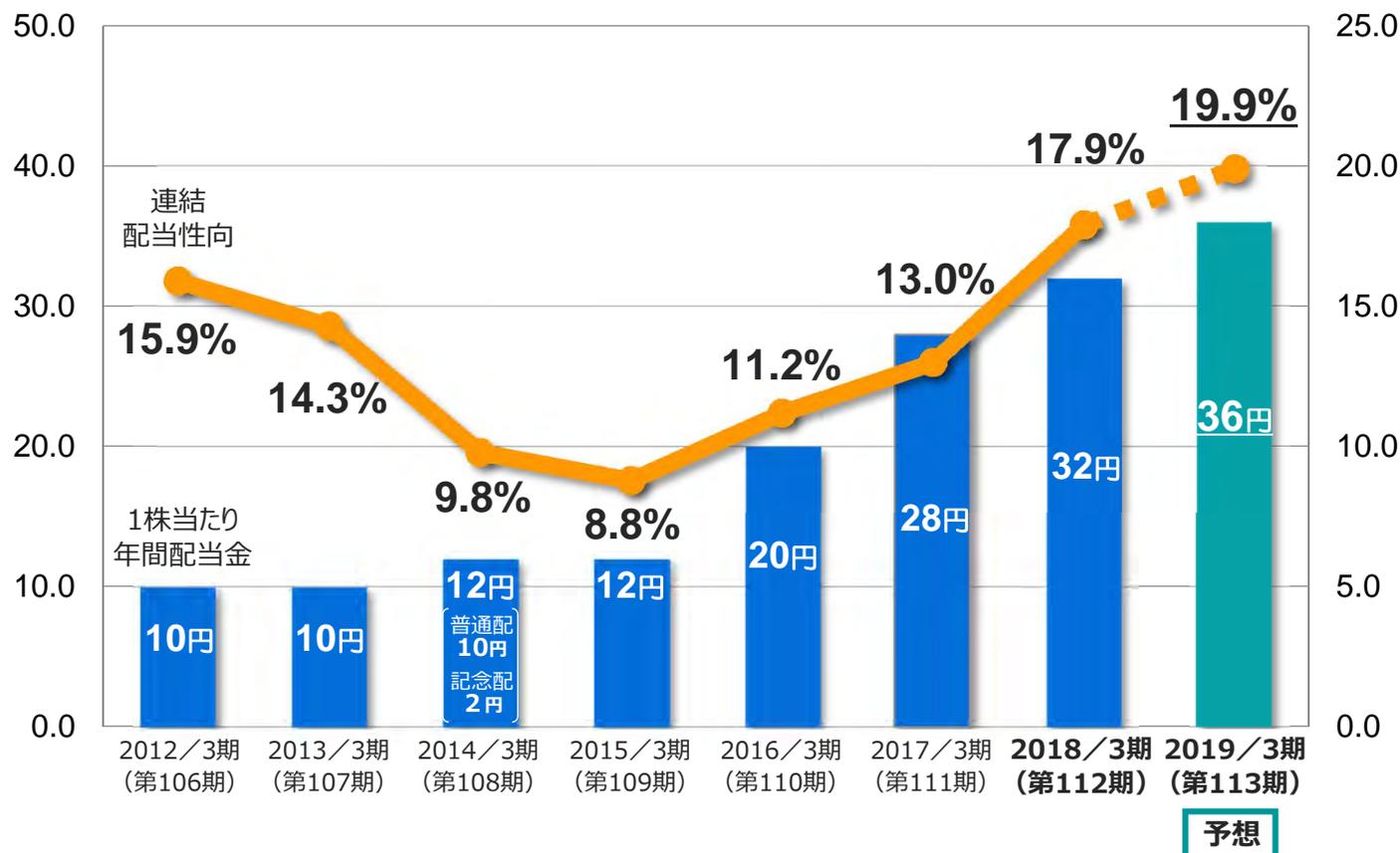
2. 2019年3月期 通期業績予想の概要

(3) 配当予想

安定配当を基本に、配当性向を考慮

1株当たり
年間配当金
(単位：円)

連結配当性向
(単位：%)



3. 当社の事業概要

(1) 沿革①

■ 創業～塗料事業の歩み

- 1929年 日本特殊塗料合資会社として、航空機用塗料の開発からスタート
- 1930年 「T・T（テー・テー）金属用塗料」を開発
- 1951年 セメント瓦用塗料「スレコート」を開発
- 1966年 屋根用塗膜防水材料「プルーフロン」の開発を皮切りに建築市場に参入
- 1973年 塗り床材「ユータック」を開発
- 1975年 航空機用「ポリウレタン塗料」が日本航空ジャンボ機に採用される
- 1983年 超高弾性壁面防水化粧材「ハイプルーフ」の開発で技術のニツクを印象づけた
- 1995年 「スカイハロー・トップコートFLV」を開発
- 1999年 「スカイハローE」H- II ロケットに採用
- 2001年 屋根用遮熱塗料「パラサーモ」を開発
- 2011年 光触媒塗料と同等の超低汚染性の機能を持つ「シルビアセラティ」を開発
- 2012年 有機無機ハイブリッド系塗り床材「ユータックコンプリート」を開発
- 2013年 風力発電ブレード用「ウィンドハロートップコートF」を開発
- 2014年 環境対応型建築用薄膜防水材料「プルーフロンエコDX」を開発
- 2016年 ガラス用遮熱塗料「NTサーモバランスNEO 1」を開発
- 2017年 学校環境衛生基準等を満足する「プールエースECO」を開発



3. 当社の事業概要

(1) 沿革②

■ 自動車製品事業への参入と防音材技術の確立

- 1953年 自動車用防音・防錆塗料「ニットク・アンダーシール」を開発
- 1964年 自動車用制振材「メルシート」を上市、防音材メーカーとして歩み始める
- 1967年 防音材メーカー、マテック・ホールディング社（現オートニウム社）と技術提携
- 1968年 吸音材「タカ」を開発
- 1969年 遮音材「タカポール」の開発により、自動車用防音材分野での基礎技術を確立
- 1970年 自動車用遮音材「ダッシュインシュレーター」を開発
- 1978年 自動車用吸音材「ボンネットライナー」を開発
- 1988年 エムス・トーゴー社（現エフテック社）とクロスライセンス契約
- 2001年 超軽量防音システム部品「RIETER ULTRA LIGHT™」※の開発により、従来比30～60%の軽量化を実現
- 2003年 自動車用吸音材「ホイールハウスインシュレーター」を開発
- 2010年 自動車用吸・遮音材「フロアカーペット」・「アンダーフロアカバー」を開発
- 2016年 フロアカーペットのバリエーションに「I F P」工法、「RIETER ULTRA LIGHT™」※のバリエーションに「H A」技術を導入



※「RIETER ULTRA LIGHT™」は、Autoneum Management AG の登録商標です

3. 当社の事業概要

(2) 塗料関連事業①

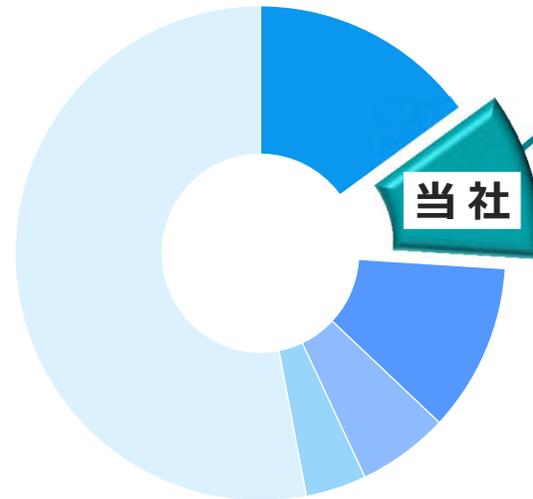
■ 建築・構築物用塗料

内外装材をはじめ、塗り床材・舗装材、防水材、屋根用塗料等様々な機能性塗料の開発、販売を行なっています。

■ 建築・構築物用防音材

独自の防音技術を磨き、建築・構築物用防音材「イーディケル」「防音くん」シリーズで様々な騒音対策に対応しています。

遮熱塗料のシェア



遮熱塗料のパイオニアとしてシェアはトップクラス。遮熱塗料は、屋根、外壁、屋上・バルコニー、ガラス面用など建物全般を遮熱し、高い省エネ・節電効果を発揮します。

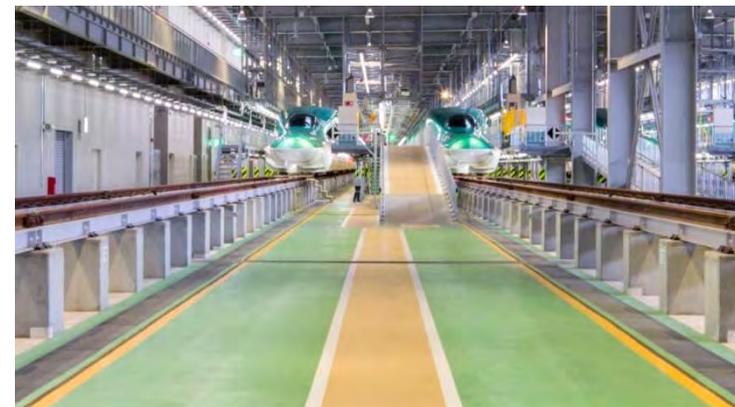


屋根用遮熱塗料「パラサーモン」
(サヌキ畜産加工協同組合)

※上場塗料会社のシェア
(塗料・塗装白書2017年度版より抜粋)



制振材「イーディケルM-3500SS」が採用された「ノエピアスタジアム神戸」(ドーム屋根部分)



塗り床材「ユータックE-40」(北海道新幹線函館総合車両基地)

3. 当社の事業概要

(2) 塗料関連事業②

■ 航空機用塗料

苛酷な環境から航空機の機体を保護する航空機用塗料「スカイハロー」は、民間航空会社をはじめ、日本国政府専用機や各航空会社の特別塗装機、さらには宇宙航空研究開発機構の月周回衛星「かぐや」にも採用されています。



全日空「ゆめジェット ~You & Me~」



宇宙航空研究開発機構「月周回衛星かぐや」

■ 鉄道車両用防音材



九州新幹線N700系「さくら」



東海道新幹線N700系「のぞみ」

■ DIY用製品



DIY用製品

3. 当社の事業概要

(3) 自動車製品関連事業①

■ 吸音材・遮音材

自動車用吸音材
「吸音ヒート
シールド」



自動車用吸音材
「フードインシュレーター」

※「RIETER ULTRA LIGHT™」は
Autoneum Management AG の登録商標です



超軽量防音システム部品
「RIETER ULTRA LIGHT™」



自動車用
吸音材
「吸音ダクト」



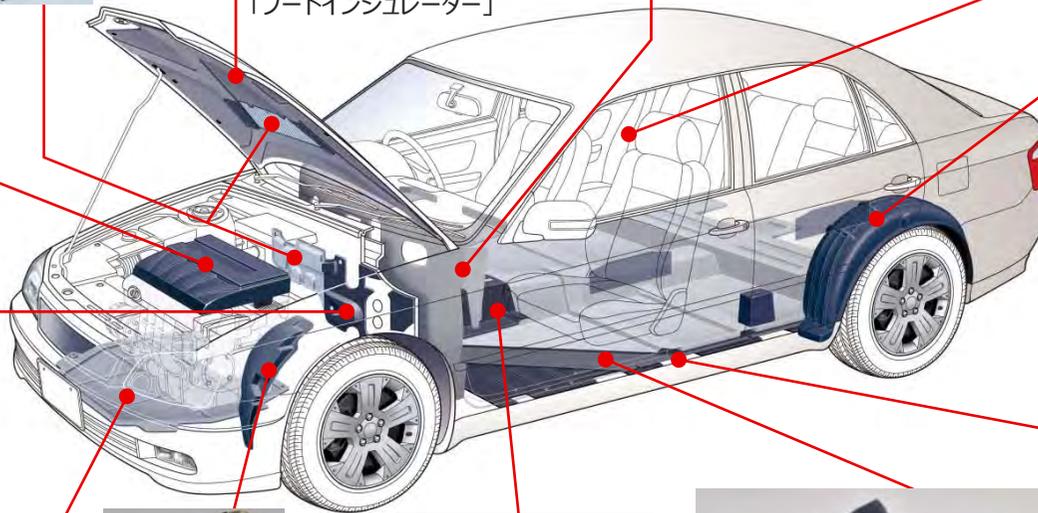
自動車用吸音材
「リア吸音ホイールハウス
プロテクター」



自動車用遮音材
「エンジントップカバー」



自動車用吸・遮音材
「ダッシュアウターインシュレーター」



自動車用吸音材
「吸音フロア
アンダーカバー」



自動車用吸音材
「吸音エンジンアンダーカバー」



自動車用吸音材「フロント吸音
ホイールハウスプロテクター」



自動車用吸音材
「トランスミッション
インシュレーター」

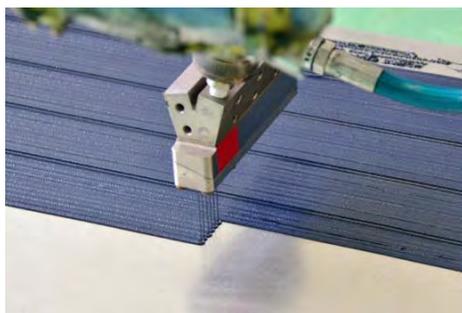


自動車用吸・遮音材「フロアカーペット」

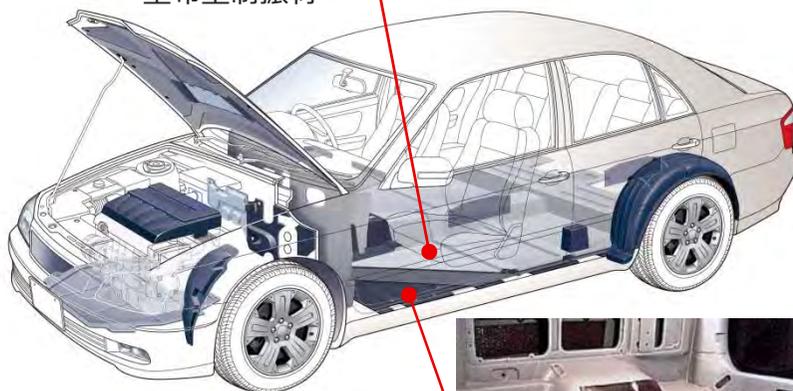
3. 当社の事業概要

(3) 自動車製品関連事業②

■ 制振材・防錆材



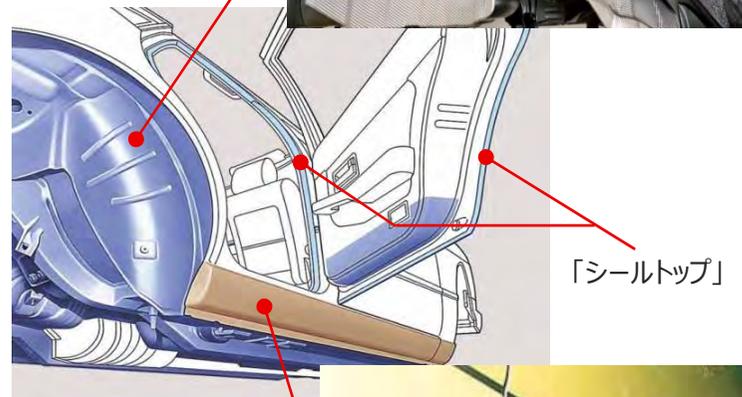
塗布型制振材



自動車用制振材「メルシート」

自動車用防錆材・シーラントの 代表的な塗装部位

「NTガードコート」
(PVC系・アクリル系)



「シールトップ」

「NTガードコート」
(PVC系・ウレタン系・
アクリル系)



3. 当社の事業概要

(3) 自動車製品関連事業③

■ ご採用いただいている自動車メーカー

<全国内自動車メーカーに納入>

- いすゞ自動車株式会社
- スズキ株式会社
- 株式会社SUBARU
- ダイハツ九州株式会社
- ダイハツ工業株式会社
- トヨタ自動車株式会社
- トヨタ自動車九州株式会社
- トヨタ自動車東日本株式会社
- トヨタ車体株式会社
- 日産自動車株式会社
- 日産自動車九州株式会社
- 日産車体株式会社
- 日産車体九州株式会社
- 日野自動車株式会社
- 本田技研工業株式会社
- マツダ株式会社
- 三菱自動車工業株式会社
- 三菱ふそうトラック・バス株式会社
- UDトラック株式会社

(50音順)

3. 当社の事業概要

(4) 海外事業 (自動車製品関連事業)

■ グローバル展開 (Nittoku/Autoneum)

- 1967  Matec Holding AG (現:Autoneum Holding AG) と技術提携
- 1986  **UGN, Inc.** を米国に設立
- 1994  **SNC Sound Proof Co.,Ltd.** をタイに設立
- 2003  日特固 (広州) 防音配件有限公司 (**ANG**) を中国に設立
- 2004  天津日特固防音配件有限公司 (**TAN**) を中国に設立
- 2005  **SRN Sound Proof Co.,Ltd.** をタイに設立
- 2008  Rieter Nittoku Automotive Sound Proof Products India Pvt.Ltd. (現:Autoneum Nittoku Sound Proof Products India Pvt.Ltd.) (**ANIS**) をインドに設立
- 2010  武漢日特固防音配件有限公司 (**WNA**) を中国に設立
- 2012  **PT.TUFFINDO NITTOKU AUTONEUM (TNA)** をインドネシアに設立
- 2013  **UGN, Inc.** がメキシコに工場を新設 (2017年に工場移転)



▲ スイス Uniker 研究所(当時)



▲ United Globe Nippon, Inc. (当時)



▲ SNCサウンドブルーフ



▲ 日特固(広州)防音配件有限公司(ANG)



▲ 天津日特固防音配件有限公司(TAN)



▲ サミット・リエタ・ニットクサウンドブルーフ (SRN)



▲ リエタ・ニットク・サウンドブルーフ・プロダクツ・インド(ANIS)



▲ 武漢日特固防音配件有限公司(WNA)



▲ PTタフィンド・ニットク・オートニウム (TNA)



▲ UGN Mexico

3. 当社の事業概要

■ グローバル・ネットワーク (現状)



武漢日特固防音配件有限公司 (中国)



天津日特固防音配件有限公司 (中国)



UGN,Inc.本社 (アメリカ)



日特固(広州)防音配件有限公司 (中国)



PT. TUFFINDO NITTOKU AUTONEUM (インドネシア)



SNC Sound Proof Co.,Ltd. (タイ)



SRN Sound Proof Co.,Ltd. (タイ)



Autoneum Nittoku Sound Proof Products India Pvt.Ltd. (インド)

3. 当社の事業概要

■ グローバル パートナー

< Autoneum (オートニウム) 社 >

① Autoneumとの技術提携関係 (防音部品)

CPA : Cooperation & Partnership Agreement

1967年以来、50年を超えるアライアンス

— グローバル戦略

— 音響解析技術・評価技術・製品開発の共有

autoneum



nittoku

② Autoneum社の概要

- ・上場企業 (SIX Swiss Exchange)
- ・純売上高 2'203.0 million CHF (約2,400億円)
- ・スイス本社、グローバルに50拠点、進出先20カ国以上
- ・従業員数 (グループ全体) 12,000名超
- ・音響・耐熱分野で4つの製品群
(InteriorFloor・Underbody・EngineBay・BodyTreatment)

3. 当社の事業概要

■ グローバル パートナー

< EMS-EFTEC社 >

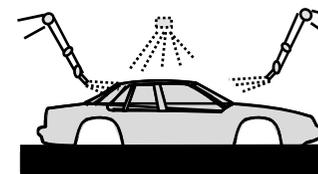


①EMS-EFTEC社の概要 (JV会社・ライセンス含む)

- ・売上高 約 700 million CHF (約770億円)
- ・従業員数 約1,200名
- ・スイス本社
- ・欧州を中心に、北・中南米、中国、タイ、インド 等へ進出

②EMS-EFTEC社の製品群

- ・板金、組立、塗装の各工程用の
接着剤、塗材、シーリング材、制振材



4. 今後の成長戦略

(1) 塗料関連事業

■ 事業環境

- ・国内の塗料市場は成熟しているものの
機能性塗料や**環境対応型塗料**のニーズ
は高い

■ 成長戦略

① 防水材・床材の販売強化

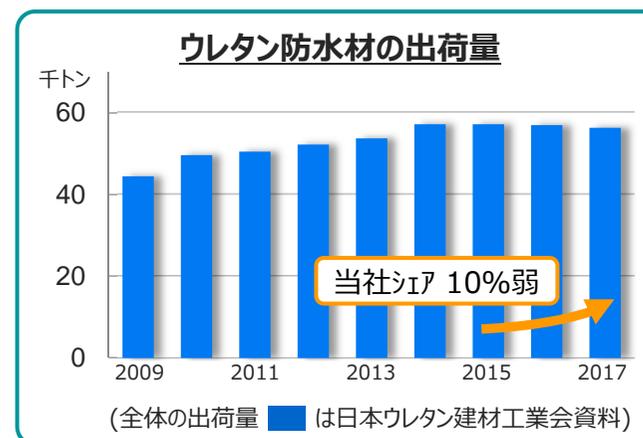
② 新分野への進出・新製品開発

顧客ニーズの綿密な調査を基にした
新分野への進出・新製品開発

(工業ライン向け製品・船舶用制振材
・自動車アフターマーケット向け製品 等)

③ 海外展開の推進

中国・アセアン地区を中心に、防水材、
床材、遮熱塗料等の販売網構築を
目指す



屋根用防水材「タフシール防水工法」
(坂の上の雲ミュージアム)



塗り床用塗料「ユータックE-30N」
(インドネシア「TNA」新倉庫)



AIR DO 特別塗装機
ベア・ドゥ 北海道JET



風力発電ブレード用塗料「ウインドロー
トップコートF」(御崎風力発電所)

4. 今後の成長戦略

(2) 自動車製品関連事業

■ 事業環境

- ・国内の自動車生産台数は減少傾向が継続



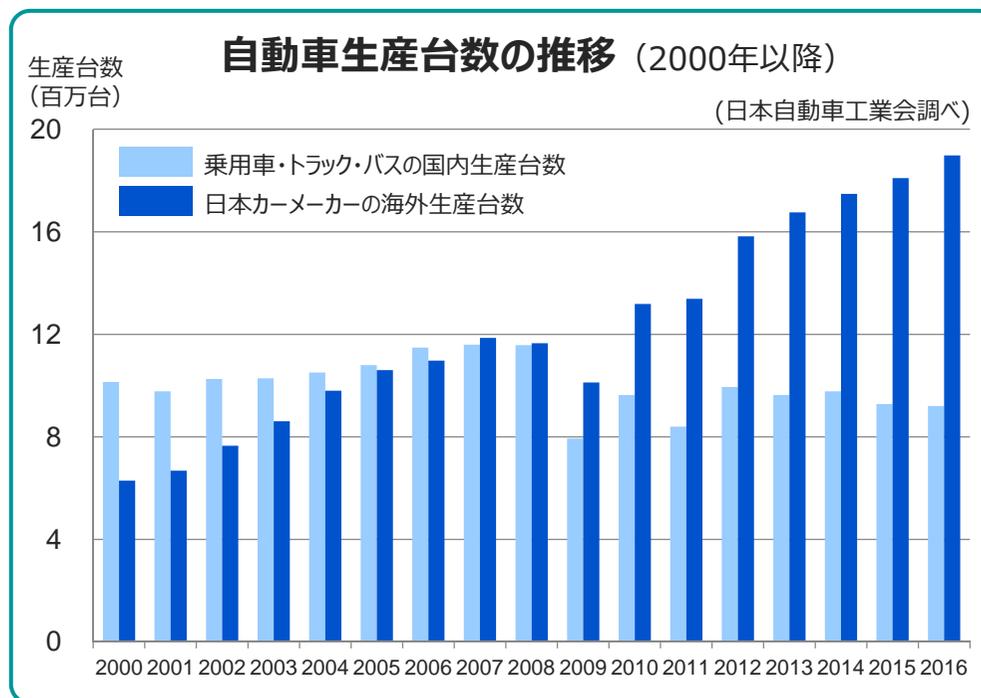
国内カーメーカーの生産の一部は海外へシフト
(グローバル生産体制)

- ・環境規制の強化
(燃費・排気ガス・車外騒音)

- ・技術革新の進展
(電動化・クルマのIT化・智能化)



自動車産業は大きな変革の時代
(ニーズが変化、多様化)



4. 今後の成長戦略

■ 成長戦略

① 新規部品の開発、受注、販売拡大（生産設備を増強）

→ 車1台当たりの部品点数増加
製品構成の変化・多様化



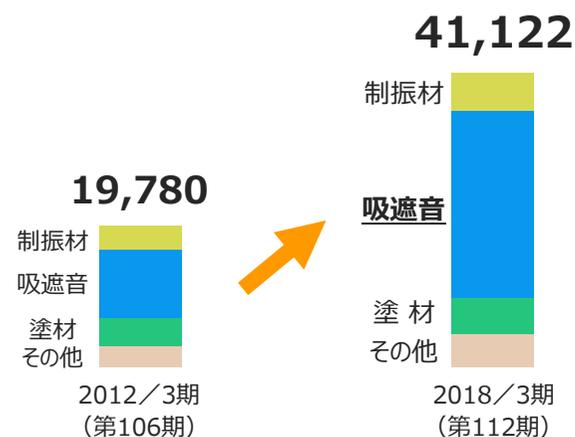
自動車用吸・遮音材「フロアカーペット」



自動車用吸音材
「吸音フロアアンダーカバー」

自動車製品関連
事業の売上高

(単位：百万円)



② 既存製品・新製品の収益性改善

生産工程・工法の安定化、省人化による生産合理化と
原材料価格の低減を推進



愛知工場生産設備

4. 今後の成長戦略

■ 成長戦略

③防音部品・塗材ニーズの変化・多様化に対応

- ・次世代環境車・新モビリティサービスを見据えた
ニーズの変化・多様化への対応
- ・高付加価値製品の開発・供給
(内装部品への新機能付与による付加価値向上)

2018年 合併会社「ATNオートアコースティクス」設立
(当社・オートニウム・トヨタ紡織 3社でNV評価・解析)

- ・個別部品の機能適正化による競争力強化と
その組合せによる高効率な車両システムの提案力強化



音響解析のための実車テストベンチ (スムーズ&ラフ面)



最新設備を整えたCADルーム



ISOCELL : 防音部品の音響透過損失測定装置



吸音材評価装置「キャビン・アルファ」

4. 今後の成長戦略

■ 成長戦略

④ グローバルな部品生産・供給体制拡充

- ・グローバルパートナー・海外 J V との戦略共有、連携強化
- ・海外工場の新設、拡張（子会社 WNA・TNA 持分法適用会社 UGN・TAN・ANG）



UGN, Inc.

メキシコ新工場建設（移転）



天津日特固防音配件有限公司
(TAN)

新工場建設



日特固（広州）防音配件
有限公司（ANG）

生産設備拡張

<地域別戦略>

- 米国 : 戦略部品を中心に、全 5 拠点で生産・販売拡大
- 欧州 : Autoneum との連携強化による販売拡大
- 中国 : 3 拠点（武漢・広州・天津）で拡大する中国自動車市場に対応
TGPM（広東時利和汽車実業集団）と連携した塗材ビジネスの拡大
- アセアン : インドネシア・タイを中心に、生産設備充実と販売拡大
（その他）

<参考資料>

1. 会社概要
2. 主要な経営指標の推移

1. 会社概要

(1) 会社概要

- 商号 日本特殊塗料株式会社
(NIHON TOKUSHU TORYO CO., LTD.)
- 本社 東京都北区王子3丁目23番2号
- 創業 1929 (昭和4) 年6月1日
- 資本金 47億5,308万円
- 発行済株式数 23,611,200株
- 連結従業員数 1,106名 (2018年3月末時点)
※臨時雇用者を除く

1. 会社概要

(2) 役員・執行役員 <監査役設置会社>

■ 取締役

代表取締役会長
最高経営責任者

野島雅寛

代表取締役社長
最高執行責任者

酒井万喜夫

代表取締役専務
最高財務責任者

田谷 純

常務取締役 ※
自動車製品事業本部長

遠田比呂志

取締役
塗料事業本部長

水野賢治

取締役
開発本部長

山口久弥

取締役
海外事業部長

安井芳彦

取締役
塗料事業本部東日本工/ア営業統括

土井義彦

社外取締役

奈良道博

社外取締役

矢部耕三

■ 監査役

常勤監査役

川名宏一

社外監査役

高橋善樹

社外監査役

松藤 斉

■ 執行役員

執行役員
塗料事業本部西日本工/ア営業統括
(兼)九州工場長

西岡寿美

執行役員
自動車製品事業本部営業統括部長

南雲三智夫

執行役員
塗料事業本部開発営業統括

立花哲弥

執行役員
塗料事業本部工場統括(兼)平塚工場長

鈴木裕史

執行役員
愛知工場長(兼)海外事業部附部長
武漢日特固防音配件有限公司出向

中村 信

執行役員
自動車製品事業本部営業統括部部長

栗原洋幸

※2018年6月22日 常務取締役 就任予定

1. 会社概要

(3) 社是・経営の基本理念

社是

創意工夫

経営の基本理念

卓越した技術と製品により社会に貢献する。

株主の利益を尊重し、社員の人格を大切にする。

環境と共生し、国際標準に準拠しつつ、
永遠の発展を目指す。

1. 会社概要

(4) 経営の基本方針・長期ビジョン

経営の基本方針

創意工夫を社是とし、独自の技術と製品をもって
顧客の要請と信頼にこたえる。

世界に活躍する企業として総合開発力を結集し、
新製品・新需要の開発に挑戦する。

人材の育成・雇用をはかるとともに、一切の無駄を省き、
高生産性・高収益を追求する。

長期ビジョン

塗料と防音材を柱に、快適環境を創造し、
社会に貢献する会社でありたい。

世界中から必要とされ、信頼される“ **nittoku** ”へ
さらに飛躍させたい。

働きに応じて評価され、働き甲斐のある
活気に満ちた会社を創り出そう。

1. 会社概要

(5) 国内主要事業所



本社



愛知工場



平塚工場



開発センター



静岡工場



塗料技術棟



九州工場



東九州工場



広島工場

1. 会社概要

(6) 環境保全への取組み

塗料製品では、有害物質を含まない安全性の高い製品や省エネルギーに貢献する製品の開発を推進。自動車用防音材の分野では、古紙や古着などの再利用やリサイクル可能な製品の生産に力を注ぎ、廃棄物の削減に努めています。



優れた遮熱効果で省エネ対策や環境対策にも有効な
屋根用遮熱塗料「パラサーモン」



リサイクル繊維を利用した防音材の製造



左側に「エヌティオG」を塗装
(右側は未塗装)

環境に配慮した光触媒塗料
「エヌティオG」(新千歳空港)



東九州工場の
防音材リサイクルライン



リサイクル原料の古着

2. 主要な経営指標（連結）の推移

	2009年 3月期	2010年 3月期	2011年 3月期	2012年 3月期	2013年 3月期	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期	2018年 3月期
売上高 (百万円)	33,028	28,992	31,605	32,238	32,781	39,391	39,570	43,812	47,998	57,260
営業利益 (百万円)	△918	73	809	895	461	1,303	1,629	2,961	3,162	3,286
経常利益 (百万円)	104	728	1,643	1,647	1,805	3,328	4,036	5,533	6,741	5,881
当期純利益 (百万円)	△168	423	1,211	1,389	1,543	2,712	3,029	3,966	4,778	3,960
1株当たり 当期純利益 (円)	△7.23	19.06	54.78	62.85	69.80	122.69	137.00	179.37	216.11	179.12
総資産 (百万円)	34,300	35,705	36,345	38,024	38,762	47,960	53,428	56,894	66,987	77,043
純資産 (百万円)	16,171	17,145	18,064	18,879	21,268	26,794	31,385	34,235	39,539	43,674
配当金 (円)	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	12.0	12.0	20.0	28.0	32.0
配当性向 (%)	—	52.5	18.3	15.9	14.3	9.8	8.8	11.2	13.0	17.9
自己資本比率 (%)	45.9	46.6	48.3	48.3	53.4	53.6	56.2	57.1	54.9	52.2
ROE (%)	—	2.6	7.1	7.7	7.9	11.7	10.9	12.7	13.8	10.3

【 I Rに関するお問合せ先】

日本特殊塗料株式会社 業務本部 財務部
(TEL : 03 - 3913 - 6134)

本資料は投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における業績予想および将来の予測等に関する記述は、資料作成時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

なお、本資料の内容は今後予告なしに変更することがあります。